

# ほろゆきん

328 くつ下



孟蘭盆会明けても厳しこの暑さ  
野分あばれる房総の海  
台風被害もなく早期稲  
盆前に無事収穫終わる  
案じつつお茶沸かし待つ台風  
去りし跡見て胸撫でおろす  
秋浅し二百二十日も間近なる  
台風時季で「稲のみのりは」  
秋の夜の台風向かふを気に病みて  
一人住む夜の心細しも  
台風過ぎ行くまでの長き夜を  
娘と語りつつミサンガを編む

兼題『台風・自由』

実吉安仁  
穂園芳江  
栢山重子  
川崎健一  
井元かず子  
山下海征

## 大崎短歌会

兼題『台風・自由』

## 薩摩郷句

兼題『道』

軒下にかざす提灯ゆらゆらと  
亡母帰りしや今宵はお盆  
散り敷ける野分のみやげ杉枝葉  
拾ひし畠に蕎麦の種蒔く

坂元つる子  
馬場みさ

風雲児 狂句の道ちゆ開れつ 今め続じつ  
(唱) 先生の苦勞い 狂句友が感謝  
エリートン 道つば女で 踏ん外じつ  
(唱) 女ん勉強 知たじ大人せなつ

西ノ園ひらり  
諸木小春

道途中ば 青年が被つた 飲酒運転  
(唱) 慰謝料はいらん 息子を戻せ言つ

上村牛歩

白寿祝 長げ道じゃった 老夫婦  
(唱) 良事悪い事 舐め合て白寿

上窪小絵

良か孫が 仲悪い姑と 道つ開けつ  
(唱) 仕方なし語つ 孫は銚い

北村虎王

好つな道つ 一杯楽しん MVP  
(唱) 好きこそものの 上手なれ言つ

二見愚楽満

カーナビが 違ご道つば言つ 行つ着かじ  
(唱) データが古りたる 買直つしやんせ

満石うらら

このさん 何処で間違た 田舎道  
(唱) 行けば行つひこ 山道ち這込つ

長重リリー

難儀した 道の跡いな 大か花  
(唱) 寝い間も惜しん ついにノーベル賞

遠矢耐多

払るかてな 身疲え畦道ち 疲れとけつ  
(唱) 力を入れつ 足しゅば踏ん張つ

藤元鬼瓦